

# サステナブル未来予想図

～最適な社会の構築に向けて～



# サステナブル 未来予想図

～最適な社会の構築に向けて～

現在の経済活動や消費活動は地球全体に大きな負担をかけており、将来世代の資源を消費してしまっています。持続可能で最適な社会を構築していくためには、限りある資源を有効に活用・循環させて、「最適な社会」を構築していく必要があります。

サステナブルな社会を実現するために、高校生・大学生のみなさんが構築すべきと考える「最適な社会」と、それに向けた取り組みを提案してください。



## 「NRI 学生小論文コンテスト」とは？

日本と世界の未来について、次代を担う若い学生のみなさんに考える機会を持っていただくための論文コンテストです。

NRIグループは「未来社会創発企業」として、新しい社会のパラダイムを洞察し、その実現を担うとともに、日本のみならずアジア、そして世界の発展に貢献してまいります。

この一環として、これからの社会を担う若い世代のみなさんに、日本や世界の未来に目を向け、自分たちが何をなすべきかを真剣に考え、その熱い思いを発表する場を持っていただこうと、2006年から毎年「NRI 学生小論文コンテスト」を開催しています。

毎年、学生のみさんから、明るい未来に向けた斬新で力強い提案をいただいています。

NRIは、コンテストで入賞した若い世代からの提案を広く社会に公表することによって、若者を含む幅広い世代が、日本の未来を考えるきっかけにしていきたい、と考えています。

## 若いみなさんが描く、最適な社会の構築に向けた「サステナブル未来予想図」を楽しみにしています

2006年に開始した「NRI 学生小論文コンテスト」は、今回で15回目となります。これほど長く本コンテストを続けてくることができたのは、学生のみなさんはもとより、学校関係者、審査委員など、多くの方々にご協力いただいているお陰であると感謝しております。ここに改めて深く御礼申し上げます。

世界は今、経済活動や消費活動による負荷が地球全体にかかり、多くの社会課題を抱えています。そこにコロナ禍という未曾有の災い加わり、経済危機や社会不安が増大しています。対面でのコミュニケーションが制限される一方で、急速にデジタル化が進み、私たちの生活も大きく変化してきています。学生のみなさんも不自由な生活を送られていることと思いますが、本コンテストにおいて、ある意味でコロナ禍によって浮き彫りになったとも言える様々な社会課題に対して、新しい着眼点から提案をしてくださることを期待しています。

NRIグループにおいても、若いみなさんが描く、最適な社会の構築に向けた「サステナブル未来予想図」の実現に貢献できるよう、今後の事業活動を行っていきたいと考えています。

NRI代表取締役会長兼社長  
此本 臣吾



### これまでの募集テーマ

大学生の部・留学生の部 | 高校生の部

- 第1回 (2006) ユビキタスネット時代のITと人間の関わり | モチベーションクライシス
- 第2回 (2007) 日本が世界と共生するには | 日本から見た世界 世界から見た日本
- 第3回 (2008) 日本の「第三の開国」に向けて | 2015年の日本人像・家族像
- 第4回 (2009) ITを活用した日本発ビジネス | 日本はコレで世界一になる!
- 第5回 (2010) 日本が世界のためにできること | 世界のなかで日本の魅力を高めるには
- 第6回 (2011) 2025年、新しい“日本型”社会の提案 | 2025年の日本を担うわたしの夢
- 第7回 (2012) 自分たちの子ども世代に創り伝えたい社会  
あるべき社会の姿と私たちの挑戦 | 私たちがすべきこと、できること、やりたいこと
- 第8回 (2013) あなたが考える“わくわく社会”を描いてください
- 第9回 (2014) 創りたい未来社会 —あなたの夢とこだわり
- 第10回 (2015) 2030年に向けて —「守るもの」、「壊すもの」、「創るもの」
- 第11回 (2016) Share the Next Values! 世界を変える、新たな挑戦
- 第12回 (2017) Share the Next Values! 地方の課題をイノベーションで解決する。  
サブテーマ ①震災復興 ②地方創生 ③地方の産業改革
- 第13回 (2018) 2030年の未来社会を創るイノベーションとは —世界に示す日本の底力!
- 第14回 (2019) サステナブル未来予想図 ~豊かで活力ある未来のために~



これまでの受賞論文記録集

ジャーナリスト

**池上 彰** さん

## 「コロナ禍の今だからこそ、論文で自らの抱く社会課題への思考を深めて」

「NRI 学生小論文コンテスト」に携わるのは今回で15回目となります。今回はコロナ感染予防のために、最終審査会のプレゼンテーションは初めてリモートで行われます。みなさんに直接お会いすることができないのは残念ですが、この新しい形式での審査を楽しみにしています。

今、大学生、高校生のみなさんはコロナ禍で不自由な生活を送り、日本や世界の未来にも危機感を抱いていることと思います。コロナで大変な今だからこそ、本コンテストを、自らの問題意識を深め、それを発信するチャンスにしてほしいと願っています。



**池上 彰** (いけがみ あきら) ——ジャーナリスト。名城大学教授、東京工業大学特命教授、東京大学客員教授など9つの大学で教える。1973年NHKに記者として入局し、1994年から「週刊子どもニュース」の“お父さん”を11年間務め、2005年独立。著書に『伝える力』『池上彰の現代史授業—21世紀を生きる若い人たちへ—シリーズ』『知らない恥をかく世界の大問題』『池上彰教授の東工大講義』『大世界史』『考える力がつく本』『考える力と情報力が身につく新聞の読み方』『社会に出るあなたに伝えたい—なぜ読解力が必要なのか?』など。

ノンフィクションライター

**最相 葉月** さん

## 「既存の枠組みにとらわれることなく自由な発想で課題を見つけ、未来を描いて」

今回のテーマは「サステナブル未来予想図 ～最適な社会の構築に向けて～」です。「サステナビリティ」について考えるとき、SDGs(持続可能な開発目標)の多様なテーマが既にあります。若いみなさんにはこの枠組みにとらわれることなく、ぜひ自由な発想で課題を見つけ、想像力を羽ばたかせて、未来を描いて欲しいと思います。

コロナ禍で大変なこの時に、集中して論文を書いて未来を考えてみようという若いみなさんの真摯な姿勢には、大変触発されるものがあります。みなさんの斬新なアイデアに出会えることを、楽しみにしています。



**最相 葉月** (さいしょう はつき) ——ノンフィクションライター。科学技術と人間の関係性、災害、医療などを中心に取材執筆活動を行う。著書に『絶対音感』(小学館ノンフィクション大賞)『青いバラ』『ビヨンド・エジソン 12人の博士が見つめる未来』『セラピスト』『れるられる』『ナグネ 中国朝鮮族の友と日本』『調べてみよう、書いてみよう』『理系という生き方—東工大講義 生涯を賭けるテーマをいかに選ぶか』、共著『胎児のはなし』など多数。『星新一—〇〇—話をつくった人』にて大佛次郎賞、講談社ノンフィクション賞、日本SF大賞、日本推理作家協会賞(評論その他の部門)、星雲賞(ノンフィクション部門)受賞。

## 大学生の部、高校生の部 募集テーマ



みなさんの考える「最適な社会」とは、どのような社会でしょうか？

NRIでは最適な社会をつくるために、「社会にとって大切な資源（ヒト・モノ・カネ・知的財産など）を有効に活用して付加価値を生み出す力強い産業を育み、あらゆる人が暮らしやすい社会を目指す」ことを、企業経営の中核目標の一つに定めています。

なぜ、「最適な社会」を目指さなければならないのでしょうか？

世界は、多くの課題を抱えています。例えば、経済活動や人々の消費活動によって生じるCO<sub>2</sub>を吸収するために、必要な生態系（牧草地、森林、海洋など）の総量を地球の面積で表す指標がありますが、現在は地球1.7個分となっています。1人当たりの数値で見ると、日本は世界約190の国や地域の中で38番目に高く、中国の1.4倍にもなります。もし世界中の人が日本人と同様の生活を送った場合、CO<sub>2</sub>の吸収には地球が約3個必要になる計算です。

このように、現在の経済活動や消費活動は地球全体に大きな負荷をかけており、将来世代の資源を消費してしまっているのです。これではとても「最適な社会」とは言えません。

近年、この課題に対する解決策の一つとして、「シェアリングエコノミー」が拡大しています。これは家など

の「空間」、服や車などの「モノ」、知識などの「スキル」といった、さまざまなものをシェア（共有）するビジネスとして登場しています。

このビジネスモデルは、「モノを所有する」よりも「必要な時に使えば良い」という人々の価値観の変化に支えられ、限られた資源を有効活用する有力な方法の一つとなっています。

テクノロジーの進歩も、解決策の例として挙げられます。

生活に馴染みつつあるAI（人工知能）は、この先「最適な社会」に向けたサポートをしてくれるでしょう。一人ひとりの好みを学習し、商品などをレコメンドしてくれるAI等は既に身近な存在です。また、伝統技術の後継者不足という問題に対しては、技術者の手の動きや視線の動きなどをAIが学習することで、優れた技術を残していくという活用法も研究されています。これも社会にとって大切な資源を残すという意味で、テクノロジーを有効活用する方法の一つです。

「最適な社会」を構築していくためには、限りあるあらゆる資源を有効に活用・循環させる必要があります。

みなさんが社会に出たとき、みなさんの子ども世代が大人になったとき、みなさんが実現すべきと考える「最適な社会」と、それに向けた取り組みを描いてください。

「サステナブル未来予想図 ～最適な社会の構築に向けて～」  
未来を拓く、オリジナリティあふれる提案をお待ちしています

## 大学生の部

### 募集期間

2020年7月1日～9月4日

### 応募資格

日本国内の大学院、大学、短大、高等専門学校（4～5年）に在籍している学生で、2020年7月1日時点で27歳以下の、個人またはペア（ペアの相手は、「大学生の部」「高校生の部」いずれかの応募資格者であること）。

### 字数

4,500～5,000字 \*別途400字程度の要約を添付

### 賞

[大賞1作品] 賞金50万円

[優秀賞1作品] 賞金25万円

[奨励賞 数作品] 賞金5万円

[留学賞特別賞1作品] 賞金25万円 \*2020年度新設

## 高校生の部

### 募集期間

2020年7月1日～9月11日

### 応募資格

日本国内の高校、高等専門学校（1～3年）に在籍している学生で、2020年7月1日時点で20歳以下の、個人またはペア（ペアの相手は、「高校生の部」の応募資格者であること）。

### 字数

2,500～3,000字 \*別途200字程度の要約を添付

### 賞

[大賞1作品] 賞金30万円

[優秀賞2作品] 賞金15万円

[奨励賞 数作品] 賞金3万円

### 〈応募に際しての注意事項〉

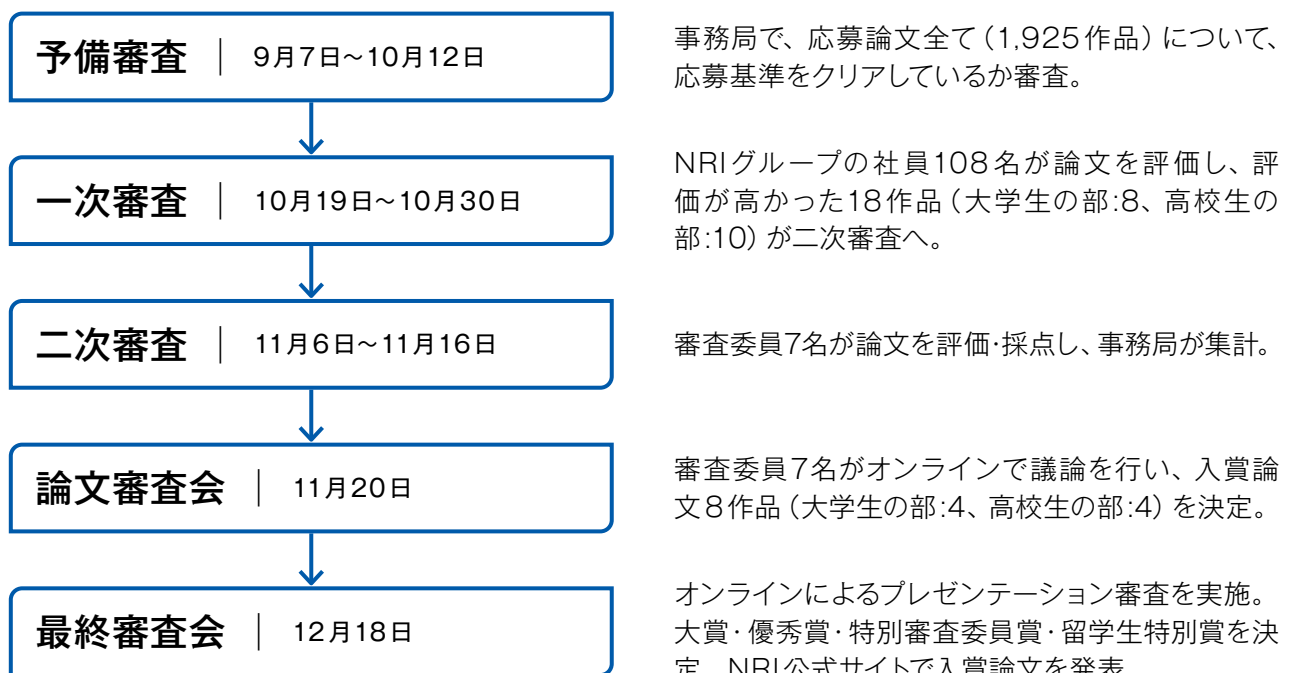
- ・応募論文は、日本語で執筆された、自作で未発表のものに限る。
- ・他の著作物を引用する場合は、その箇所を明記するとともに、論文の最後に出所を記載する。
- ・図表中の文字、図表タイトル、注釈、参考文献一覧は、字数に含まない。図表の数は5点以内とする。
- ・他のコンテストなどに同内容の論文を多重応募することは禁止とする。
- ・最終審査会のプレゼンテーションの映像は、内容を確認した上でYouTubeで公開する。
- ・入賞した論文の著作権は、野村総合研究所に帰属する。

入賞論文は、予備審査→一次審査→二次審査→論文審査会→最終審査会という5つのステップを経て決定しました。

## 最終審査会では、プレゼンテーション審査を実施

- 論文審査会通过した入賞者には、最終審査会において6分間のプレゼンテーションを行ってもらいました（今年度はオンラインで実施）。
- 各賞は、最終審査会におけるプレゼンテーションで確定しました。

最終審査会以外は、どの審査においても、応募者の学校名、氏名などの属性を秘匿したうえで、厳正に行っています。また、評価が偏らないように、1つ1つの応募作品を複数の審査委員が評価しています。



### 〈論文審査の評価基準〉

#### ◆ 問題発見力

- ・ 独自の視点で問題の提起がなされているか
- ・ 論点に対する切り口の鋭さ、考察の深さ
- ・ 具体例、数値を使用するなど論点のわかりやすさ

#### ◆ 問題解決力

- ・ 提案や解決策のスケールの雄大さ、視野の広さ
- ・ 提案や解決策の独自性・実現性

#### ◆ 文章力

- ・ 論文構成のわかりやすさ
- ・ 文法の正しさ、誤字・脱字の少なさ

#### ◆ 斬新／大胆な発想力

- ・ 実現性に乏しくても、発想が斬新で大胆なもの
- ・ 多くの人に夢や希望を与えるもの

#### ◆ 上記には該当しない評価点（これまでに評価された点の例）

- ・ テーマや提案内容に対する熱い思い
- ・ 独自の調査・取材
- ・ 体験談

# 入賞作品

NRI 学生小論文コンテスト2020

入賞者のみなさん、おめでとうございます！

## 大学生の部

### 大賞

お野菜ヒッチハイクプロジェクト ～野菜の廃棄ゼロを目指した新しい直売のカタチ～

丹野 円 東北学院大学 経済学部2年

渡辺 結衣子 東北学院大学 経済学部2年 (共著)

### 優秀賞

空き地転用農園「スーパー・コンバージョン・ファーム (SCF)」の提案

坂田 匡弥 県立広島大学 経営情報学部3年

池本 海大 県立広島大学 経営情報学部3年 (共著)

### 特別審査 委員賞

人と環境 (自然・歴史的文化) の繋がりを維持することから生まれる新たな農業との関わり方

三輪 泰生 成安造形大学 芸術学部3年

### 留学生特別賞

持続可能な観光 ～留学生から見た「おもてなし」～

ウィン ウィン ピュ 高崎経済大学 地域政策学部3年

グエン ティ ビック 高崎経済大学 地域政策学部3年 (共著)

## 高校生の部

### 大賞

Illuminateプロジェクトで子供達の未来を照らす  
～サステナブルジャパンの実現へ～

佐藤 美空 神奈川県 フェリス女学院高等学校2年

### 優秀賞

地下鉄風力発電 ～捨てられる列車風をエネルギーに～

石井 裕太 滋賀県 膳所高等学校2年

### 優秀賞

「減災納税」で減災対策、そして自然災害による新たな貧困をなくす

佐藤 さくら 福岡県 筑紫丘高等学校2年

### 特別審査 委員賞

いじめの増加について考える ～教育からの視点～

川本 洋輔 東京都 世田谷学園高等学校2年



## 大学生の部 敢闘賞・奨励賞

ごみの上のまち  
～YIMBYプロジェクト～

岡野 優衣 県立広島大学 経営情報学部3年  
田坂 萌 県立広島大学 経営情報学部3年 (共著)

敢闘賞

環境保全と再生可能エネルギー  
～エコシティ気仙沼の取り組みを参考に～

菊田 大翔 東北学院大学 経済学部2年  
工藤 大和 東北学院大学 経済学部2年 (共著)

奨励賞

ジビエ振興による温室効果ガス削減の取り組み

鶴丸 卓也 北海道大学 農学部4年

敢闘賞

プラスチックごみの新しい活用方法  
～アップサイクル～

中嶋 美咲 金沢大学 人間社会学域・経済学類1年

奨励賞

たためる未来都市構想  
～少子高齢・人口減少化する日本を支える  
新たな都市デザインのかたち～

中村 祐太 日本大学 理工学部3年

敢闘賞

## 高校生の部 敢闘賞・奨励賞

地域再生から目指す  
都市と地方の循環型社会の提案

稲田 拓実 神奈川県 桐蔭学園高等学校2年

奨励賞

地域を学生寮に

小野 真琴 宮城県 宮城野高等学校2年

奨励賞

八地方行政の設立による都市一極集中の緩和

加藤 もも 東京都 中央大学高等学校3年

奨励賞

短所を逆手に新たな再生可能エネルギー

金澤 杏奈 埼玉県 本庄東高等学校2年

敢闘賞

アフリカの貧困脱却と教育の見直し

川端 亜咲 東京都 広尾学園高等学校1年

奨励賞

「レジ袋有料化」による  
日常生活の変化と環境的影響

郷家 葵 宮城県 宮城野高等学校1年

敢闘賞

すべての労働者を守る仕組み

後藤 侑紗 岩手県 一関第一高等学校2年

敢闘賞

コロナ禍の今こそ、オンライン図書館

小堀 瑠菜 埼玉県 本庄東高等学校2年

敢闘賞

2Gプロジェクトで高齢者と子どもを繋ぐ、  
隣人を第二の家族に!

笹尾 優那 神奈川県 鎌倉女学院高等学校1年

敢闘賞

河川と都市の理想を考える  
～水害のない、住みよい街のために～

塩見 純矢 福岡県 筑紫丘高等学校2年

奨励賞

小学校との融合で課題を解決!  
～農業・デイサービス～

清水 美礼 埼玉県 本庄東高等学校2年

敢闘賞

ロジカルキャパシティ  
—情報過多社会で正確なデータを元に課題を見つける—

中西 りか 東京都 広尾学園高等学校1年

奨励賞

東京一極集中を打破  
「ローカルホリック」プロジェクト

長原 春香 神奈川県 横浜雙葉高等学校2年

奨励賞

「focus on children's education」

西岡 明里 千葉県 八千代松陰高等学校2年

北村 陽佳 千葉県 八千代松陰高等学校2年 (共著)

奨励賞

新生児に明るい未来を!  
～妊婦健診アプリを運用しよう～

橋本 彩里 福岡県 筑紫丘高等学校2年

奨励賞

AIやIOTを活用し、  
地域の産業活動や家庭生活に必要なエネルギーを  
地域で生産し供給する仕組みをつくる  
(地域特性を活かした多様な再生可能エネルギーの導入  
によるエネルギーの自給率向上)

藤田 佳甫 鹿児島県 鹿児島実業高等学校2年

敢闘賞

「NRI 学生小論文コンテスト2020」の応募論文数と入賞論文数は、以下のとおりです。

応募論文数 ( )内は留学生

大学生の部	高校生の部
<b>201(26)</b>	<b>1,724</b>
総数 <b>1,925</b>	

入賞論文数

	大学生の部	高校生の部	計
最終審査会参加者*	<b>4</b>	<b>4</b>	<b>8</b>
敢闘賞・奨励賞	<b>5</b>	<b>15</b>	<b>20</b>
計	<b>9</b>	<b>19</b>	<b>28</b>

\*大賞・優秀賞・特別審査委員賞・留学生特別賞



オンラインで行われた論文審査会



最終審査会もオンラインで